

*SJCD international*

*4th Joint Meeting*

2012年  
SJCDインターナショナル  
合同例会in福岡

p r o g r a m

## 《2012年SJCD合同例会開催にあたって》



第4回目の合同例会が福岡で開催される事となりました。  
会員の皆様には、九州の地に奮って参加していただく事をお願いいたします。  
SJCD会員の素晴らしいケースプレゼンテーションと忌憚のないディスカッションを期待しています。

又、今回は韓国、台湾等アジアの先生方もご招待しています。今後はこの合同例会を  
インターナショナルメンバーと十分協議をし、アジア・パシフィック・カンファレンス  
としていきたいと思ひます。

臨床発表がどのような結果になるか私自身も非常に楽しみにしています。

SJCDインターナショナル会長 **山崎長郎**



本格的合同例会が、北海道から始まり、熊本・東北と続き、第4回の合同例会が、福岡  
の地で開催されることになりました。

2011年3月11日、日本にとって未曾有の災害に見舞われました。直接被害に遭われた  
東北地方の人達はもちろん、日本中が大きなダメージを受けました。SJCDの会員、個人  
個人はもちろんのこと、SJCDインターナショナルとしても微力ながらも援助の手を  
差し伸べられたのではと思ひます。第4回合同例会が東北地方の人達へ、金銭・物資だ  
けでなく、精神的にも元気づけられる大会になることを願ひ、多くのメンバーの参加を  
切望します。

尚、今大会には韓国・台湾の先生たちもオブザーバーとして参加致します。これから  
も、アジアの国々に門戸を広げていければと思ひています。

そして今回、福岡SJCD会員の多大なる尽力に心から感謝し、大会当日、多くの会員の  
先生達に会えることを楽しみにしています。

SJCDインターナショナル 副会長 **本多 正明**



未曾有の東日本大震災から約1年が経ちました。被災地の再生に向けて様々な活動  
が進んでおりますが、一日も早く、被災された方々が元気なることを心よりお祈り  
申し上げます。

さて今回、第4回SJCD合同例会を福岡で催すこととなりました。しかも福岡SJCD  
が発足して20年目を迎え、同時に20周年記念セレモニーも行う予定です。これも  
SJCDインターナショナル会長山崎長郎先生、副会長本多正明先生、また多くの  
SJCD会員の方々のご指導とご協力のおかげと深く感謝しております。

今回の大会は、発表される先生方が思う存分発表できることを第一の目標に準備を  
してまいりました。ぜひ全国の多くのメンバーが集結し、熱いディスカッションを交  
わし、夜は楽しく親睦を深め、そして各地の新たなフレンドリーライバルを見つける  
ことができれば、我々福岡SJCDの目標が達成できたと考えています。この2日間  
が、さらなるモチベーションの向上の場、そして臨床の研鑽を高める場、また新た  
な友人の探索に繋がればと思ひます。是非、熱い熱い福岡を堪能していただきたいと  
思ひます。

この大会が成功しますよう福岡SJCD会員一同、全力で臨みます。皆様、どうぞご  
協力よろしくお祈り致します。

大会会長 **北園俊司**

《タイムスケジュール》

**7月21日（土）**

11:30~12:20 福岡SJCD20周年記念式典  
 12:45~13:00 開会式  
 13:00~14:30 コンベンショナル1~3  
 14:30~14:40 休憩  
 14:40~15:40 コンベンショナル4~5  
 15:40~15:50 休憩  
 15:50~17:20 審美修復治療1~3  
 17:20~17:30 休憩  
 17:30~18:30 審美修復治療4~5  
 18:30 (初日終了)  
 19:30~21:30 懇親会(グランドハイアット福岡)

**7月22日（日）**

09:30~11:00 インプラント 1~3  
 11:00~11:10 休憩  
 11:10~12:10 インプラント 4~5  
 12:10~13:10 昼食  
 13:10~14:10 山崎長郎<sup>会長</sup> 特別講演  
 14:10~14:20 休憩  
 14:20~14:50 表彰式 閉会式  
 14:50 解散

*C o o r d i n a t o r*

**Theme - 1 コンベンショナルレストレーション**



**木原敏裕先生**

奈良県生駒市開業  
 SJCDインターナショナル常任理事



**鈴木真名先生**

東京都葛飾区開業  
 SJCDインターナショナル常任理事

**Theme - 2 審 美 修 復 治 療**



**土屋賢司先生**

東京都千代田区開業  
 SJCDインターナショナル常任理事



**南 昌宏先生**

大阪府大阪市開業  
 SJCDインターナショナル常任理事

**Theme - 3 イ ン プ ラ ン ト 治 療**



**伊藤雄策先生**

大阪府大阪市開業  
 SJCDインターナショナル常任理事



**小濱忠一先生**

福島県いわき市開業  
 SJCDインターナショナル常任理事

土曜日13:00~13:30

## 《01-コンベンショナル-1》保険治療の悲劇とそのリカバリーケース

佐々木恵造

愛媛県宇和島市開業 四国SJCD

座長：木原敏裕先生



全顎的な修復治療、補綴治療を行うことにより、患者さんのQOLの向上と口腔内の長期的な健康を維持していくにあたって、術後一番大きなリスクを負うところは無髄歯の存在ではないでしょうか。

生体のなかで、軟組織、硬組織を含めて治癒能力をもっていないところは歯質であり、患者さんはこの国の歯科医療制度によってあまりにも安易に歯を削られ、口腔内環境整備がなされぬまま、何度通院しても良くならない。

症例は48歳女性、主訴は右上Brの咬合痛と咀嚼障害。

度重なる保険治療により残存歯のほとんどが無髄歯となり、咬合高径の低下、病的な咬合状態となり右下顎頭はコンプレッションを受けTMDを発現している。

スプリントにより本来の下顎位を回復し、欠損部にはインプラントを使用、患者さんの強い希望により可及的に無髄歯を保存し咬合再構成を行った初診から11年術後8年ケース。

現在患者さんは60歳。平均寿命90歳に近い昨今、終末医療に向けて今後の展開とメンテナンス、治療反省点を報告したいと思います。

土曜日13:30~14:00

## 《02-コンベンショナル-2》インプラントを用いて咬合再構成した一例 (インプラント修復におけるスプリントの再考)

加藤大樹

石川県金沢市開業 北陸SJCD

座長：木原敏裕先生



2010年、あの合同例会で盛り上がった仙台の地に大災害が起きた時準備して下さった東北SJCDの方々の顔が思い出され、非常に胸が痛みました。

初めての合同例会参加から2年、全国で切磋琢磨されている先生を目の辺りにし、自分の臨床も少しずつ変わってきたように思います。

多数歯欠損部のインプラント治療においてスプリントしている補綴物を多数見かけますが、本当にそれがよいのか？

インプラント修復のメリットとして天然歯と同じように単独で修復することが可能ですが、実際には補綴で連結しているケースをよく見かけます。

ケースを通じてスプリントかノンスプリントかを再考してみたいと思います。

土曜日14:00~14:30

《03-コンベンショナル-3》**臼歯部修復治療におけるアンテリアガイダンスの重要性について**

**佐名川 徹**

岡山県岡山市開業 広島SJCD

座長：鈴木真名先生



咬合再構成において、補綴物のLongevityを得るためには、パーティカルストップとアンテリアガイダンスが重要である。

とは言え、日々の臨床においては、アンテリアガイダンスが欠如し、臼歯離開が得られていない症例にも多く遭遇する。

そして、それらの症例は静かに臼歯の崩壊が進んでいることも多く、その自覚がないが故に、患者が全顎治療へ勇気ある一歩を踏み出せない場合も少なくない。

今回、前述した問題により歯冠崩壊を認める患者に対して、アンテリアガイダンスを確立し、臼歯部への過剰な負担を軽減して補綴物の維持に繋がった症例を提示する。

この症例は、私がSJCDのコンセプトを学んで初めて挑んだ全顎治療でもある。

顎位が不安定でパラファンクションが存在するケースに対し、患者と共に勇気を出して挑み、試行錯誤の中で仕上げた症例を、反省を踏まえながら術後5年半の経過とともに発表する。

土曜日14:40~15:10

《04-コンベンショナル-4》**インプラント修復により患者のQOL向上をもたらした一症例**

**石川清之**

京都府亀岡市開業 京都SJCD

座長：鈴木真名先生



1985年に歯科大学を卒業し、5年間の勤務医を経て開業、その後SJCDの門をくぐり約20年もの時間が経過した。

SJCDで学んだ診査・診断・治療計画を大切にしている診療スタイルを多くの患者に実践していくことによって、徐々にではあるが初診時に目の前の患者に対する治療ゴールが見えるようになってきた。今回の発表では耳鼻科医という関連領域の医師に対して上顎洞挙上を併用したインプラント処置を含めた咬合再構成を行い、初診時描いた計画通りの治療ゴールを具現化することができた。インプラントを含めた補綴処置が患者のQOL向上に大きく役立ったケースを通じて、私の目指す「歯科医師としての到達点」を提示させて頂きたい。

土曜日15:10~15:40

## 《05-コンベンショナル-5》咬合高径の変更とその評価

**山崎章弘**

山口県下関市開業 福岡SJCD

座長：鈴木真名先生



臨床において咬合を変更させなければならないケースは少なくないが、何の基準もなく安易に咬合を変更させることは大変危険なことである。

咬合高径を変更するには、どのような理由で現在の口腔内の状況になったかを分析し、変更させることが可能かどうかを、まず診断しなければならない。

咬合を変更させることが可能としても、何らかの基準がなければ、垂直的咬合高径は決定できない。

Frank Spearも述べているように絶対に正しい咬合高径というものには存在しない。

今回のケースでは、機能性と審美性の調和を考えて、様々な因子から総合的に咬合高径を決定し修復治療を行ったのでここに報告する。

土曜日15:50~16:20

## 《06-審美修復治療-1》Esthetic treatment for canted occlusal plane

**田ヶ原昭弘**

愛知県名古屋市開業 名古屋SJCD

座長：土屋賢司先生



咬合平面というと、側方から見たスピーの弯曲を思い浮かべる人が多いのではないだろうか？しかし咬合平面という概念には、正面から見た前歯部の切縁ラインや臼歯部のウィルソン弯曲も含まれる。審美的な観点からすると、正面から見た咬合平面の評価は非常に重要である。

今回は、正面から見た咬合平面が傾斜している症例に対して、審美的にも機能的にも満足する結果を得るためには、どのように診査・診断し、治療計画を立案すべきかについて、私なりの意見を交えて提示してみたい。

土曜日16:20~16:50

《07-審美修復治療-2》**歯周補綴に審美はないのか～矯正・インプラントの応用～****川里邦夫**

大阪市北区開業 大阪SJCD

座長：土屋賢司先生



歯周補綴において、審美と機能を両立させることは困難である。それは、歯周補綴の直面する問題点として、以下の6項目が挙げられるからである。①病的歯牙移動を起こしているため、歯列が顔貌に調和していない。②歯周組織が減少しているため、臨床的歯冠長は長く、ブラックスペースが生じる。③歯・歯列・修復物の構造力学的な問題がある④動揺歯をコントロールする必要がある。⑤二次性咬合性外傷を起こさないための咬合の安定が必要である。⑥長期の継続的メンテナンスが必要である。その困難さのためか、安易に天然歯を抜歯し、インプラントが埋入されることも少なくない。しかし、歯周補綴のケースであっても、矯正治療・歯周治療・インプラント・咬合を応用することで、天然歯を保存し、術後のクオリティを上げることが可能なケースもあると考えられる。矯正治療と再生療法によって、垂直性・水平性の骨欠損を改善し、インプラントによって構造力学的な問題を解決し、動揺歯のコントロールを行い、咬合の安定が得られたケースから、まだ術後5年ではあるが、歯周補綴について再考してみたい。

土曜日16:50~17:20

《08-審美修復治療-3》**Conventional Treatment Approach to Esthetic Demand****西山 英史**

東京都港区開業 東京SJCD

座長：南 昌宏先生



日常臨床において、「患者にとっての問題」と「我々の目に見えてくる問題」、そしてそこに「潜在している問題」、この三つの問題のギャップに悩まされることが多くあります。

そのようなとき、治療によって患者にとっての問題のみを解決できたとしても、それは「ゴール」ではなく、「対処」の域であることから、治療の最終形を「ゴール」として位置付けるには、審美・機能・構造力学・生物学的恒常性の4項目すべてを融合させる必要があります。

しかし実際の臨床では、限られた枠の中での治療を余儀なくされる場面もあり、可能な範囲で問題のギャップを埋めることで、患者の満足と高い予知性を導き出さなければならないこともあります。

今回、前歯部の審美障害を主訴として来院した患者に対し、問題解決のために全顎的なアプローチを行った症例を提示させていただきます。咬合の問題に起因する補綴物の崩壊や我々の目からみた審美的な問題など、「患者にとっての問題」の裏側にあるものをどう解決していくかが治療上のポイントとなりました。ゴールを目指していく過程で、咬合の問題、プレパレーションの設定、軟組織と補綴物の関係、正中位置のアレンジ等、苦慮した面も多く、自分にとって大変勉強になった症例です。治療遂行上のコントロールで苦心した点を自身の考察を含めて発表させていただきます。ご指導を戴ければ幸いです。

土曜日17:30~18:00

## 《09-審美修復治療-4》前歯欠損歯槽堤部へのアプローチ

佐々木俊哉

秋田県秋田市開業 東北SJCD

座長：南 昌宏先生



患者は50歳女性。右上2番の歯肉の腫脹と疼痛および悪臭にて当院を来院した。右上2番は歯根破折しており、患者自ら瞬間接着剤等で対処し長期間放置していた。また下顎臼歯欠損部位にはパーシャルデンチャーを使用出来ず、ほぼ前歯だけで咬合している状態であった。

問題点として、①Vertical stopの欠如（Eichnerの分類B-1）②上顎前歯の歯頸線の不揃い③不良補綴物による審美障害等が挙げられた。

全顎的な診査、診断、ワックスアップの結果、先に下顎臼歯部咬合崩壊部に対しNobel Guideを用いたインプラントのプランニングを行い、それをもとにしたガイドドサージェリーにてインプラントを埋入し、パーティカルストップを確立した。その後プロビジョナルレステーションにて顎位の安定を確認しフルマウスリコンストラクションを行った。

主訴である右上2番は抜歯を行い、その後の欠損歯槽堤に対しては歯頸線の連続性、陥凹した歯肉のボリュームを増すために結合組織移植を用いたペリオドンタルマイクロサージェリーを行った。ゴールとする目標形態である最終補綴物をプロビジョナルにて模倣し、Post-prosthetic-procedureを改良した術式を用いて審美性の回復を試みた。MIを意識した歯周形成外科を用いる事により、瘢痕等の術後の審美性を損なう要素を少なくすることができた。

その術式に関して診断、治療計画、治療経過について焦点を当てて述べてみたい。

土曜日18:00~18:30

## 《10-審美修復治療-5》Esthetic Recovery Around Teeth and Implants Using Connective Tissue Graft. (結合組織移植による歯とインプラント周囲の審美性回復)

大河原純也

茨城県つくば市開業 東京SJCD

座長：南 昌宏先生



結合組織移植は、従来から歯周組織や欠損部歯槽堤、さらにインプラント周囲の環境改善に広く臨床応用されている。また、最近ではインプラントの再治療（以下、インプラントリカバリー）への応用も報告され、インプラント治療が多用されている昨今の状況を考えると、今後この分野へのニーズが高まると予想される。しかしながら、既存のインプラントを活用して審美性・機能性の回復を図ることは臨床的に難しく、残念ながらインプラント除去が選択されることも少なくない。したがって、現在インプラントリカバリーのガイドラインを確立することが急務となっている。

そこで、今回インプラントを含む上歯部の審美障害を主訴に来院した患者に対して歯とインプラント周囲に結合組織移植を行い、審美性を回復した症例を提示する。そして、結合組織移植によるインプラントリカバリーの特徴と適応症について考察する。



日曜日09:30~10:00

## 《11-インプラント-1》インプラントからみた咬合接触

武井賢郎

長野県千曲市開業 新潟SJCD

座長：伊藤雄策先生



膨大な研究と臨床経験を踏まえて、今やインプラントは手術術式や表面性状が飛躍的に改善、進歩がされて適応症も拡大し、生存率は限りなく高い数値を示してきている。しかし、長期的な経過観察中には上部構造の破折や上部構造の固着様式の緩み、フレームの破損、又、対合歯の脆弱化、骨吸収等の予期しない偶発症が発現する事がある。その原因のひとつにインプラント上部構造の咬合様式や咬合接触、過荷重を含めた力学的問題がある事も報告されている。経年的症例を提示してインプラントの咬合と上部構造を構築するに際しての私見と、その対応について文献をレビューしながら考察をしてみたい。S J C Dで学んできた英知を社会に還元できれば幸いである。先生方の忌憚のないご意見を頂きたい。

日曜日10:00~10:30

## 《12-インプラント-2》インプラントオーバーデンチャー維持装置の比較

小坪義博

福岡県久留米市開業 熊本SJCD

座長：伊藤雄策先生



多数歯欠損や無歯顎の患者で顎堤の吸収が進行したケースにおけるインプラント治療では固定性上部構造よりもオーバーデンチャーによる修復の方が人工歯の排列位置や歯肉のボリュームの自由度が高く、良好な審美性の回復が可能である。また、オーバーデンチャーを撤去して清掃することができるため、高齢者に対する口腔清掃指導が容易になると考えられる。

インプラント上のオーバーデンチャーの維持装置にはバーアタッチメントとスタッドアタッチメントが使用されている。バーアタッチメントは支持が強固で、大きな咬合力の回復を期待できるが、アタッチメント周囲の義歯内面に大きな空隙が必要であり、歯肉増殖の原因となる。スタッドアタッチメントはインプラント同士の連結はできないが製作が容易で義歯の粘膜面に空隙を必要としない。スタッドアタッチメントにはゴム、プラスチックまたは金属クリップの弾力や摩擦を利用して維持力を発揮するものと磁力による吸着力を利用するものがある。磁性のアタッチメントは有害な側方力を発生させないのでインプラント上のスタッドアタッチメントとして有用性が高いと考えられる。また、摩耗や破損する部品がなく、維持力が減衰することがないため、メンテナンスが容易である。さらに着脱方向の自由度が高く、手先の不自由な患者への適応や介護を受けている高齢者への使用にも適していると考えられる。

今回はスタッドアタッチメントを利用したオーバーデンチャーの臨床応用について症例を供覧し、特徴を解説する。

日曜日10:30～11:00

**《13-インプラント-3》上顎無歯顎患者におけるインプラント補綴戦略****大森有樹**

大阪府中央区開業 大阪SJCD

座長：小濱忠一先生



近年インプラント治療は著しく発展し、生物学的かつ審美的に予知性の高い結果を得ることができるようになってきた。

その一方インプラントの普及とともにインプラントのトラブル（合併症）も多く発生し、その検証もなされるようになってきた。

その中でも無歯顎のインプラント治療においては、より適切な補綴的な対応が求められると考える。

今発表では上顎無歯顎インプラント修復の症例を通じ、インプラント治療における補綴戦略をディスカッションしてみたい。

日曜日11:10～11:40

**《14-インプラント-4》無歯顎インプラント治療について****木村 洋子**

北海道札幌市開業 北海道SJCD

座長：小濱忠一先生



無歯顎、無歯顎予備軍の患者にとって、インプラント治療は、失った歯と機能を取り戻すことができる現在では最適の治療である。しかしながら無歯顎のインプラント治療は、外科的治療法、補綴種類も多く、その選択肢は多岐にわたり、その診査診断も複雑である。同時にインプラント埋入オペ後の患者のQOLの確保は難しい。このような無歯顎患者にとって、シンプルで安全で、低侵襲なインプラント治療法は特に望まれるものである。

今回、無歯顎の患者に対してオールオンフォー、ノーベルガイドなどのテクニックを使いインプラント治療を行った。この中で、これらの方法のメリットまた、無歯顎患者のインプラント治療のリスクについても学んだので報告したい。

日曜日11:40~12:10

## 《15-インプラント-5》 Hard & Soft Tissue Management

松浦 明

佐賀県武雄市開業 福岡SJCD

座長：小濱忠一先生



SJCDに入会して、そしてインプラントを臨床に取り入れて約19年になる。

フィクスチャーは勿論、様々なマテリアルの選択や、術式に悩まされてきた。

4年前にCTを導入し、過去のインプラントの周囲の骨を確認したところ、特に頬側骨の吸収に愕然とした。

現在では、長期間の安定、また審美性を確保するためにはハード、ソフトティッシュマネージメントは必要不可欠だと考える。

今回は、58歳男性の上下フルマウスインプラント補綴に際して、現在私が考えるフィクスチャーの選択とインプラント周囲組織の必要性、そしてサージカルガイドを利用することにより、リスクをマネージメントできた事を発表する。

日曜日13:10~14:10

## 《特別講演》 Interdisciplinary management of complex restorative treatment for avoiding failures

山崎長郎

SJCDインターナショナル会長



A large change is brought to modern restorative dentistry by the innovation and development of dental materials. From the patient's side, a voice to expect a higher level of esthetic restorative treatment is also rising because of a deluge of information and knowledge from various media and fields.

However, on the other hand, it possesses a certain element of danger.

In other words, it has a possibility to twist the essence of treatment in an excess of seeking esthetics. It is an axiomatic truth that even the esthetic restorative treatment cannot be said as a real restorative treatment if it has no considerations of function, structural mechanics and biology etc together.

That is the why we have to establish the clinical basis for the esthetic restorative treatment now, considering this knowledge. At the same time, the more complicated and difficult the clinical cases become, the more cooperation with another field, such as orthodontics, periodontics, and implantology will be needed at each clinical stage before, during, and after treatment. Thus the key to success of more refined aesthetic restorative treatment is a minute and detailed discussion with the specialist of another field about the diagnostic treatment planning.

Learning Objectives:

1. Understand interdisciplinary treatment
2. Explore the guidelines of material selection
3. Understand esthetic classifications

# 2012年SJCDインターナショナル合同例会in福岡

●開催日時 2012年7月21日(土) 12:45~18:30

※11:30~12:20福岡SJCD20周年記念式典(同会場)

※19:30~ 懇親会 (グランドハイアット福岡)

22日(日) 09:30~14:50

●会場 アクロス福岡 シンフォニーホール ①  
(懇親会場 グランドハイアット福岡) ②



●アクロス福岡

〒810-0001 福岡市中央区天神1丁目1番1号

TEL 092-725-9111

●JR博多駅から

地下鉄で博多駅から天神まで5分、16

番出口から徒歩3分

●福岡空港から

地下鉄福岡空港駅から天神駅まで11分

16番出口から徒歩3分

●参加資格 SJCD会員のみ

●参加費 無料 (ただし懇親会費は10,000円 別途事前支部単位振込)

●申込方法 各支部SJCD事務局にて一括

●ゴルフ 7月20日(金)ザ・クイーンズヒルゴルフクラブにて

## 福岡SJCD20周年記念式典

ようこそ、福岡へ。今回、第4回SJCD合同例会と同時に福岡SJCD20周年記念セレモニーを行うことになりました。今、思い出しますと本多正明先生の福岡コースを受講したメンバーが歯周補綴に開眼し、レベルの向上を目指して福岡コースの受講者のみによる勉強会を発足しました。最初は20名弱の会員数でしたが、会員資格をオープンにし20年後には300人に届こうとする大きな集団になりました。これも山崎長郎先生、本多正明先生、またいろんなSJCD会員の方々のご指導のおかげと深く感謝しております。今後も福岡SJCDは一致団結して頑張りますので、これからもよろしくお願ひします。

今回、ささやかながら記念セレモニーを合同例会開始前(11:30-12:20)に行います。

お時間の都合がつかれば、ぜひご参加ください。

そしてこの2日間、めいっぱい福岡を昼夜楽しんでいってください。

庄野保幸 (福岡SJCD初代会長)



## 実行委員

大会会長 /北園俊司

実行委員長 /高田浩行

会計管理担当 /岡部千香夫

プログラム担当 /西 耕作

例会発表担当 /徳田将典

受付管理担当 /野村勇太

展示賛助会員担当 /石川太樹

会場進行管理担当 /山崎章弘

懇親会担当 /松浦 明

ゴルフコンペ担当 /江口隆郎

記録 /橋口眞幸

庶務 /前嶋和幸